

海と森の関わりを知る---千葉市に残された海の記憶を辿る

2025/05/20 みどりの教室 2025 年度資料

森林インストラクター 稲岡 一義

1. 「海と森の関わり」とは

「森は海の恋人（畠山重篤著 文春文庫）」と言われますが、森を形成する樹木の中には逆に、「海を恋人」としている樹木もある様です。それは、「海から離れた森ではあまり見られないが、海に近い森では多く見られる樹木」が多く存在し、「海から離れた森で（のみ）多く見られる樹木」とは歴然とした違いがあることから理解出来ます。そして海を含む地形、大地の高低差、海からの距離、降水量を含む水環境等々の自然環境の過去と現在が、その土地の自然の姿を形づくりします。今日は、そう云った自然環境の過去と現在、そしてそれらが創りあげた自然を身近な千葉市周辺に探ってみましょう。

千葉市の自然の特徴として、暖温帯に属すること、高度がたかだか 100m 足らずであること、比較的新しく形成された土壌からなる大地、過去から現在に至まで海の影響を強く受けていること等が挙げられます。

2. 潮風に強い樹木、海岸近くに多い樹木

海の影響を探る上で重要なのは、潮風に強く海岸近くに多い樹木と、陸地性の樹木の識別です。

潮風に強く、海岸地域に多く自生するのは以下のような樹木です。

クロマツ（マツ科）、オオバグミ（グミ科）、トベラ（トベラ科）、マサキ（ニシキギ科）、ヤブニッケイ（クスノキ科）、タブノキ（クスノキ科）、シャリンバイ（バラ科）、ウバメガシ（ブナ科）等。

図 1. に花見川周辺のタブノキの分布を掲載しました。タブノキの分布と海岸からの距離に注目しましょう。

一方、山地にも多いが海岸地域にも多く自生する樹木としては、

モチノキ（モチノキ科）、アオキ（ミズキ科）、ヤブツバキ（ツバキ科）などがあります。

3. 千葉市の自然の特徴

千葉市は、日本の多くの都市の中でも特に海との関わりが深い地域です。その特徴をいくつか挙げてみます。

- (1) 貝塚の数（密度）が日本一 ----- 千葉市には日本最大級の貝塚である国の特別史跡「加曽利貝塚」があり、且つ貝塚分布密度が日本で世界最大の貝塚密集地帯といわれています。（日本列島ではおよそ

2400 箇所発見されており、その 4 分の 1 近くが千葉県下に集中、特に千葉市内は約 120 ヲ所と高分布密度です。有史以前から海の幸を利用して人々が生活してきた地域と云えます。

- (2) 縄文海進（約 6,000 年前）時には、市の中心部は殆ど浅海でした。（上図）。
- (3) 花見川流域は縄文時代、天戸大橋付近まで東京湾、北は八千代市の萱田、宮内付近まで古鬼怒湾だった。（図 1、ルートマップ参照）
- (4) 1000 年前（平安時代）の「更科日記」（作：菅原孝標女）の時代にも、現在の千葉市の中心部は「結城浦」と云う入江（本千葉駅～葭川公園辺）、池田の池（都町、道場南、本町辺）等があり、その周辺は湿地帯であったらしい。
- (5) 千葉市の巨木（千葉市保存樹木中の太い木）30 選のうち、9 本がタブノキ（海岸性）で最多。（千葉県内では、巨木は殆どがスダジイ、スギ、イチョウ、クスノキ等）

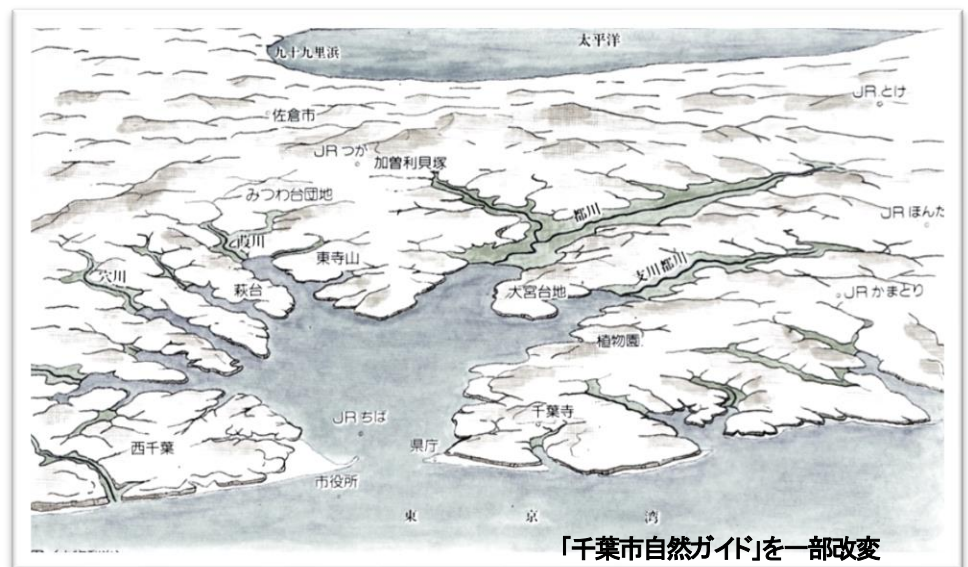


図 1.

花見川流域の縄文時代における 海岸・湾岸とタブノキの分布図

縄文時代の海岸・湾岸の位置は、
「千葉の自然を訪ねて」(築地書館 1992刊)等による。

◎ 自生のタブノキ △ 幼木 × 植栽

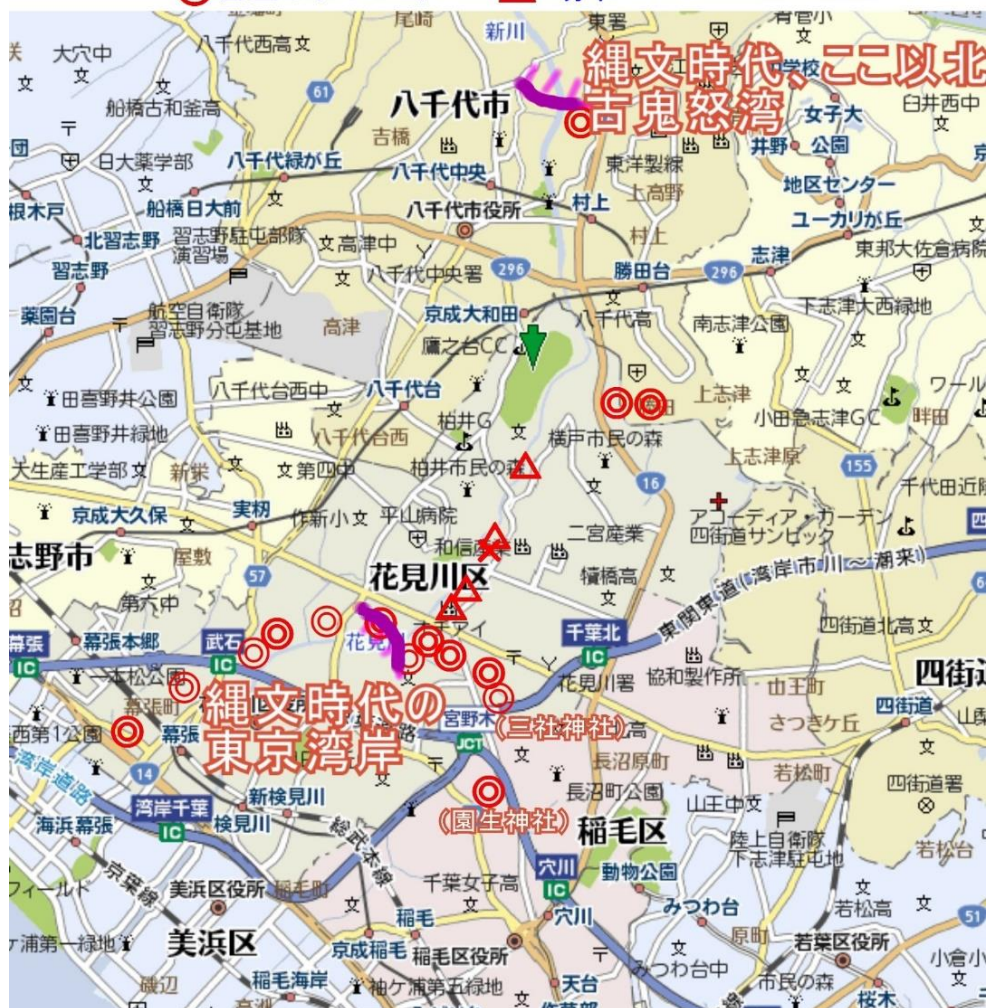
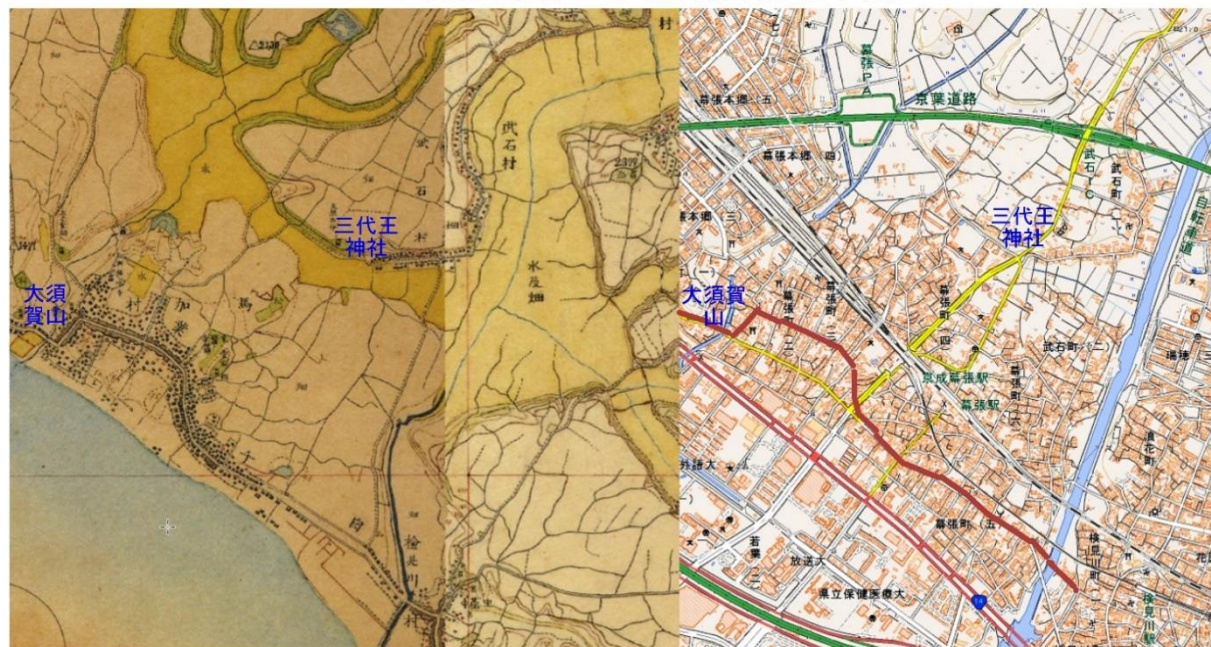


図 2. 幕張地区の比較図

左: 1886年頃

右: 現在(2012年頃)



右図の— ラインが左図の海岸近くを走る
旧房総往還(千葉街道)

1886年頃の地図は、「迅速測図」を使用
出典: 歴史的農業環境閲覧システム <http://habs.dc.affrc.go.jp>

図 3. 雪害
以前の
大須賀山



大須賀山のヤブニッケイ林 (1980年代後半)

『千葉市自然ガイド』より

図4 幕張地区埋め立ての歴史

航空写真：国土地理院

幕張地区航空写真 1946年02月28日



1946年2月28日

幕張航空写真 1961年11月08日



1961年11月08日

幕張地区航空写真 1970年04月23日



1970年4月23日

幕張地区航空写真 1988年10月30日



1988年10月30日

みどりの教室 ルートマップ

—— 本日のルート

